

## 「すごくかっこいい仕事」中学生が考えた自衛隊

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、5月25日（金）、浜松市立三方原中学校の「未来授業」に参加した。

これは、同校が一般社団法人未来学校の協力のもと、地域で働く多種多様な職業に就いている大人を講師として招き、生徒に将来について考えてもらう目的で行った。同校での開催は初めてで、当日は2年生が5、6人ずつのグループに分かれ、36人の講師からそれぞれの職業について授業を受けた。

静岡地本は、公務員を代表して自衛隊の任務や職種の話、自衛官のやりがいや魅力などを紹介した。生徒からの質問の時間には「自衛隊にも女性はいいますか」「普段はどんな活動をしていますか」といった疑問のほか、「自衛隊に就職したきっかけはなんですか」など、普段目に見えない自衛官への素朴な質問もあり、広報官が自らの経験談を交えながら、元氣な中学生の疑問一つ一つにわかりやすく答えた。

授業を受けた生徒からは「陰で支える人はとてもかっこよく、自分のことではなく、みんなのことを一生懸命考えてくれてるのがわかった」「地震などで被害にあったところへ行き、人命を救ったり、困っている人を助けてくれる、すごくかっこいい仕事だと思った」といった感想文が学校を通じて広報官に寄せられた。



## 防大静岡県家族会、新入生を激励

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、6月3日（日）、神奈川県横須賀市内において防衛大学校静岡県家族会が実施した「新入生・在校生激励会」を支援した。

これは、同家族会が新入生に対する激励と、在校生と家族との交流を目的に毎年実施しているもので、今年には県内出身の学生28人とその家族等50人が集まった。

激励会では、一政広会長が学生に激励の言葉を送り、新入生が自己紹介で激励の2カ月間を報告したほか、先輩学生が後輩学生に防大生活についてアドバイスするなどして、会を盛り上げた。

また、防大OBの佐藤正久外務副大臣が訪れ、自らが自衛官として勤務していた当時の様子を思い出しながら、これからの日本の防衛を担う学生たちを激励した。

同会員等は翌日、防衛大学校を訪れ、学生の課業行進を見学。その後、指導教官と面談した。

激励会に参加した会員は、遅く成長した我が子や学生たちの凛々しい姿を見て「防衛大学校に入学させて、本当に良かった」と安堵の表情で話していた。

静岡地本は、今後も同家族会の支援を続けていく。

